

# 耳公民館だより



## 第54号 令和6年2月



(雨に煙る御岳山：宮代)

これまで、このコーナーでは主に晴天の耳地区の景色を紹介してきましたが、雨の日もいいかなと、ぶらりと出かけてみました。いつも見ているはずの山ですが、新鮮な気づきがありました。どれが御岳山かというと全部は映っていないんですね。山というと頂上に目がいきがちですが、途中まで隠れていると「こんな形なんだ、小さいのが集まっているんだな」などと思いました。子供のころ何回も登っていたはずなのに…。

## オニヤンマ作り(一般) 1/27(土)



12名参加



## オニヤンマ作り(親子) 2/4(日)

25名参加



## 美浜町歴史文化館第15回企画展

# 美浜に残る北前船の波跡



### 歴史文化館 展示室

5月12日(日)まで

一般 100円

小中学生 50円



こちらもあわせてご覧ください

### 耳公民館 “ろうかで写真展”

#### 「弥美神社の大しめ縄ができるまで」

— わら一本一本に願いをこめて —

わらの準備から鳥居への設置まで、崇敬会の皆さんの取組の様子を32点展示しています。



3/24(日)まで  
展示しています

(入場無料)

### 館長のつぶやき

もうすぐ春

「春とは名ばかりの」とよく言われますが、立春というのは毎年寒いですね。節分の翌日にあたりますが、豆をまいた次の日にあらが降るなんてこともあります。

ともあれ「立」と「春」は何となくいい感じがする二文字です。この日から数えて八十八夜や二百十日があるという、冬を終えて春がスタートする日なんですね。

二月はプロ野球のキャンプや受験シーズンがニュースになる時期でもあり、町内に目を向けると集落の新役員の仕事が始まることも多いかと思えます。

立春の次の二十四節気は「雨水」で二月十九日頃です。雪や氷がとけて水になり、雪にかわって雨が降るということで昔から農作業の準備を始める目安とされてきました。これは北陸地域で暮らす私たちにはわかりやすいですね。

始まる話ばかりだと、せかさされてそわそわする気になるかもしれません。冬から春へはぼちぼち行きたいところです。

「春隣(はるとなり)」という季語があつて、こちらはあわてずにゆっくりという感じがします。寒い寒いと言っていたら気がつくといつの間にか隣に春がいた、いっしょに本格的な春に少しずつ向かっていく。私にはしつくりきます。

まちづくりや生涯学習の取り組みが新聞紙上ににぎわっています。すごいことをやってるなと感心することが多いわけですが、講座やサークルに参加してくださる皆さんが隣でいっしょに歩いていただければ、耳公民館はマイペースであせらずに進んでいきます。